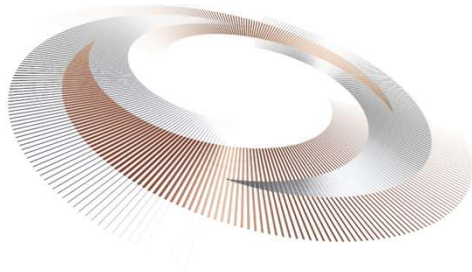


2024年3月期決算補足説明資料

2024年5月14日



執行役常務の高柳でございます。
本日は、弊社決算説明会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。
それでは、2024年3月期 決算概要および2025年3月期通期業績見通しについてご説明いたします。
まずは、4ページ、エグゼクティブサマリをご覧ください。



人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する

限りある資源を大切に使うために、使用済みの製品を資源として再生させる。

そこに新たな価値を付加し、再び社会に送り出す。

その循環のプラットフォームを構築し、自らプレイヤーとして価値を創出する。

そして未来に向けて、持続可能な社会の実現に力強く貢献し、循環の輪を広げていく。

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

目次

1. エグゼクティブサマリ	P.4
2. 損益推移の状況（四半期）	P.5
3. 24年3月期実績	P.6
4. 連結貸借対照表	P.9
5. 25年3月期通期業績予想	P.10
6. セグメント概況	P.12
7. UBE三菱セメント社概況	P.16
8. コスト競争力強化	P.17
9. 減価償却費・設備投資額	P.18
10. キャッシュフロー・ネットDEレシオ	P.19
11. 参考情報	P.21

エグゼクティブサマリ

景況感	- 自動車市場は、3Qまでは回復基調にあったが、4Qに入り自動車生産台数の回復は鈍化した。 - 半導体市場は、4Qでは需要の底を打ちつつある。 - 為替レートは円安基調継続。金属価格は、銅は3月に大きく上昇、パラジウムは下げ止まった。電気料金の高止まりと原材料コスト高は継続。
24年3月期実績	24年3月期実績は、売上高は減収、営業利益は減益、経常利益及び純利益は増益 - 売上高：16,259億円→15,406億円、前年同期比△5% 為替が円安で推移したことによる増収があったが、市況悪化による自動車・半導体向け製品の販売減、PTSの受託製錬へのスキーム変更（22年度4Q）、多結晶シリコン事業の譲渡（22年度4Q）の影響等により減収。 - 営業利益：500億円→232億円、前年同期比△54% 為替が円安で推移したことによる増益に加え、コスト競争力強化や値上げの取り組みを行ったが、自動車・半導体向け製品の販売減や原材料高騰影響により減益。 - 経常利益：253億円→541億円、前年同期比+114% ロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金の増加（3Q）やUBE三菱セメント社の持分法損益の改善などにより増益。 - 純利益：203億円→297億円、前年同期比+47% 電子材料事業等での減損損失計上があったが、経常利益が改善したことにより純利益も増益。
25年3月期予想	25年3月期の通期業績予想は、増収、増益。 - 売上高19,500億円（+4,094億円）、営業利益410億円（+177億円）、経常利益630億円（+89億円）、当期純利益450億円（+152億円）。（ ）内は24年3月期実績比 - 金属：ロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金は下振れ予想とするが、製錬所の生産トラブル解消による増産や資源事業の持分法投資損益の改善などを見込む。 - 銅加工：自動車市場・半導体市場ともに需要が回復傾向であるため、増販を見込む。 - 電子材料：半導体市場の需要が回復傾向にあるため、下期より本格的な需要回復を見込む。 - 加工：海外向けの製品の価格改定や需要回復による増販を見込む。 - 配当予想は、6円増配の100円（中間50円、期末50円）。

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

4

最初に景況感についてご説明します。

自動車市場は、第3四半期までは回復基調でしたが、第4四半期に入り自動車生産台数の回復は鈍化しました。他方、半導体市場は、第4四半期の需要のレベルは低水準でしたが足元は需要の回復基調が見えています。為替レートは円安基調が継続しています。金属価格は、銅は3月に大きく上昇し、パラジウムも下げ止まりがみられます。電気料金の高止まりと原材料コスト高は継続しています。

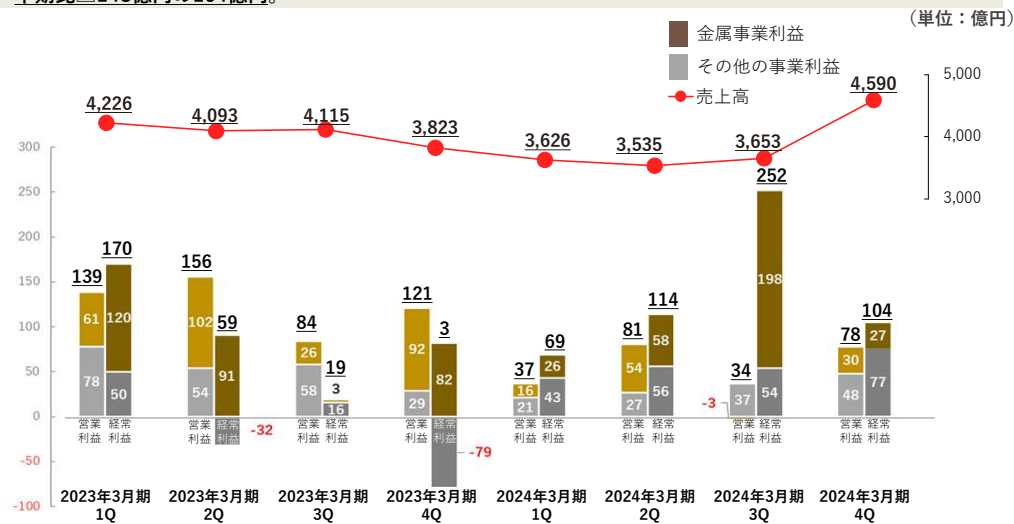
2024年3月期実績は、売上高は減収、営業利益は減益でしたが、経常利益及び純利益は増益となりました。売上高は、為替が円安で推移したことによる影響がありましたが、市況悪化による自動車・半導体向け製品の販売減、2022年度第4四半期に行ったPTSの受託製錬へのスキーム変更や、多結晶シリコン事業の譲渡影響等により減収となりました。営業利益は、為替による増益に加えて、コスト競争力強化や値上げの取り組みを推進していましたが、自動車や半導体向け製品の販売減や原材料の高騰影響が大きく、減益となりました。経常利益は、第3四半期に発生したロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金の増加やUBE三菱セメント社の持分法損益の改善により増益となりました。純利益は、電子材料事業のセラミックス工場等での減損損失計上がありましたが、経常利益が改善したことにより増益となりました。

2025年3月期の通期業績予想は、対前年度比で増収、増益を予想しています。各カンパニーの状況については、金属事業は、ロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金は下振れを予想していますが、製錬所の生産トラブル解消による増産や資源事業の持分法投資損益の改善などを見込んでいます。銅加工事業は、自動車市場・半導体市場ともに需要が回復傾向であるため、増販を見込んでいます。電子材料事業は、半導体市場の需要が回復傾向にあるため、下期より本格的な需要回復を見込んでいます。加工事業は、海外向けの製品の価格改定や需要回復による増販を見込んでいます。

配当予想は、2023年度の94円から6円増配の100円（中間配当50円、期末配当50円）としています。

損益推移の状況（四半期）

- 売上高は、製錬所での生産トラブル解消、原材料の入荷再開による増収などにより前四半期比+936億円の4,590億円。
- 営業利益は、金属実収効率改善による利益計上などにより前四半期比+44億円の78億円。
- 経常利益は、前四半期に計上したロスペランプレス銅鉱山からの受取配当金がなかった影響などにより前四半期比△148億円の104億円。



こちらは四半期毎の損益の推移です。

各四半期の売上高の推移は折れ線グラフで示し、営業利益・経常利益は棒グラフで示しています。

なお、金属事業の営業利益は半期ごとの金属実収効率改善による利益計上、経常利益は鉱山配当の計上で毎四半期変動しますので、金属事業とそれ以外の事業利益を分けて示しています。

金属を除く事業の営業利益の推移をみると、2024年3月期第1四半期を底に、徐々に回復していることがお分かりいただけるかと思います。

24年3月期実績（連結損益計算書）

（単位：億円）

項目	23年3月期 実績(a)	24年3月期 実績(b)	増減(b-a)
売上高	16,259	15,406	△852
営業利益	500	232	△267
受取配当金	92	240	+147
持分法損益	△219	115	+334
経常利益	253	541	+287
特別損益	△105	△80	+24
親会社株主に帰属する 当期純利益	203	297	+94
ドル為替 (円/\$)	135	145	+9
ユーロ為替 (円/€)	141	157	+16
銅価格 (¢/lb)	388	379	△9
金価格 (\$/oz)	1,805	1,989	+184
パラジウム価格 (\$/oz)	1,918	1,191	△728

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

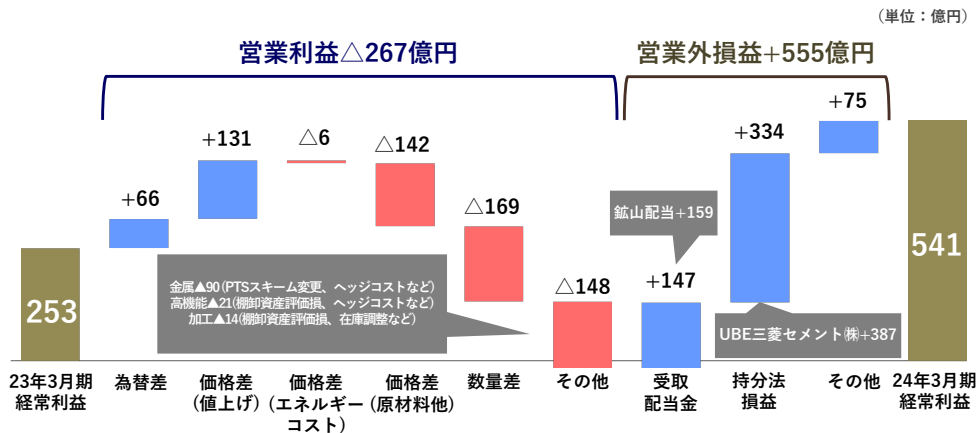
6

こちらは、2024年3月期実績を示しています。詳細を次のページでご説明いたします。

24年3月期実績（利益要因内訳）

価格改定、受取配当金の増加、持分法投資利益の計上などにより経常利益が増益

- 営業利益は、価格改定や為替水準が円安基調で推移した影響などがあった一方、パラジウム価格の大幅な下落や硫酸手取りの悪化、自動車市場向け製品、半導体関連製品の販売減少などにより232億円（前年度実績△267億円の減益）となった。
- 経常利益は、営業利益が減益となった一方、ロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金の増加に加えて、UBE三菱セメント(株)の持分法投資利益の増加などにより541億円（前年度実績+287億円の増益）となった。



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

7

こちらは、2024年3月期の経常利益を2023年3月期実績と比較した増減分析となります。今回から価格差を値上げとエネルギーコストと原材料コストに分けてお示ししています。

営業利益は、価格改定や為替水準が円安基調で推移した影響があった一方で、パラジウム価格の大幅な下落や硫酸手取りの悪化、自動車市場向け製品、半導体関連製品の販売減少などにより、対前年で267億円の減益となりました。

営業外損益は、前四半期に計上したロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金の増加に加えて、UBE三菱セメント(株)の持分法投資利益の増加などにより、対前年で555億円の増益となりました。

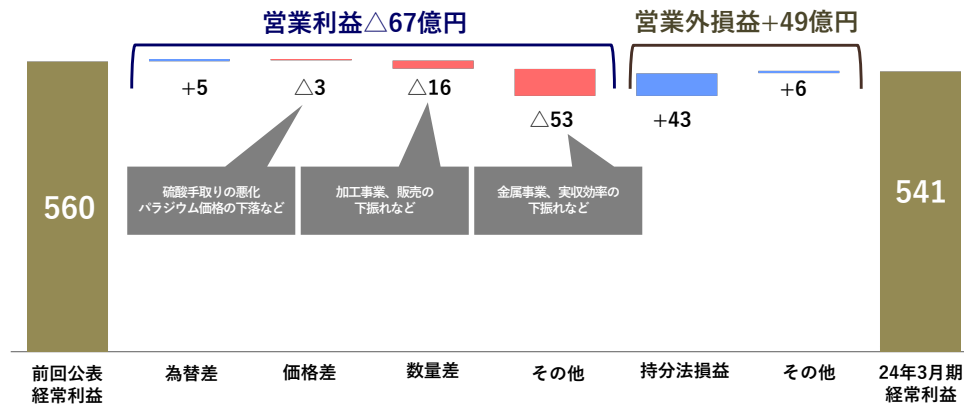
これらの結果、経常利益は対前年で287億円増の541億円となりました。

続いて8ページをご覧ください。

24年3月期実績前回（2月9日）公表予想対比（利益要因内訳）

- 営業利益は、自動車生産が回復傾向にあるものの、素材メーカー側の本格的な需要回復には至らず自動車市場向け製品で販売が減少したことに加え、予定していた収益改善施策が未達であったことなどから前回予想△67億円の減益となった。
- 経常利益はUBE三菱セメント(株)の持分法投資利益の上振れなどにより前回予想と同水準となった。
- 純利益は、電材事業セラミックス工場（半導体市況影響）や北九州アッシュリサイクルシステムズ（焼却飛灰リサイクル事業の終了）での減損損失など特別損失の増加により前回予想380億円から△82億円の減益となった。

（単位：億円）



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

8

こちらは、2024年3月期の経常利益を、前回予想と比較した増減分析となります。

営業利益は、金属事業における実収効率の低下など、その他の下振れが大きかった一方で、営業外損益は、UBE三菱セメントの上振れにより持分法投資損益が増加しました。その結果、経常利益は前回予想比で18億円減益の541億円となりました。

純利益は、第4四半期に電材事業セラミックス工場や北九州アッシュリサイクルシステムズでの減損損失など特別損失の計上があり、前回予想比で82億円減益の297億円となりました。

連結貸借対照表

				(単位：億円)			
項目	23年3月末 (a)	24年3月末 (b)	増減 (b - a)	項目	23年3月末 (a)	24年3月末 (b)	増減 (b - a)
流動資産	11,160	12,830	+1,669	借入金・社債・CP	5,335	6,031	+696
固定資産	7,757	8,845	+1,088	その他負債	7,293	8,788	+1,494
資産 計	18,917	21,676	+2,758	負債 計	12,629	14,820	+2,190
自己資本比率	31 %	30 %	△1 %	自己資本	5,933	6,536	+603
ネット DEレシオ	0.7 倍	0.7 倍	－ 倍	非支配株主持分	355	319	△35
				純資産 計	6,288	6,856	+567
				負債純資産 計	18,917	21,676	+2,758

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

9

こちらは2024年3月末時点の連結バランスシートを示しています。

資産合計は2兆1,676億円となり、2023年3月末から2,758億円増加しました。

前年度第4四半期に実施した直島製錬所の炉修影響を受けて2023年3月末は棚卸資産が減少していましたが、その影響がなくなったため流動資産は増加しました。

また、PTSの拡張工事に伴う固定資産の増加や、持分法適用会社であるマントベルデ銅鉱山への操業資金の貸付け増加なども増加の要因となっています。

25年3月期 通期業績予想

- 売上高は、自動車市場・半導体市場の需要回復、製錬所の生産トラブル解消などにより増収を見込む。
- 純利益は、経常利益の増加に加え、特別損益の減少などにより増益を見込む。
(営業利益、経常利益の増益要因は次頁に記載。)
- 配当予想は、6円増配の100円(中間50円、期末50円)。
- ROICは、経常利益の増益を見込むものの、投下資本の増加により4.3%(前年度実績+0.5%)となる見込み。
- ROEは、純利益の大幅な改善により6.7%(前年度実績+1.9%)となる見込み。

(単位: 億円)

連結損益計算書		24年3月期 実績 (a)	25年3月期 予想 (b)	増減 (b-a)
売上高		15,406	19,500	+4,094
営業利益		232	410	+177
受取配当金		240	172	△67
持分法損益		115	148	+33
経常利益		541	630	+89
特別損益		△80	-	+80
親会社株主に帰属 する当期純利益		297	450	+152
一株配当 (円)	中間	47	50	+3
	期末	47	50	+3
ROIC (%)		3.8	4.3	+0.5
ROE (%)		4.8	6.7	+1.9

為替・金属価格	24年3月期 実績(a)	25年3月期 予想(b)	増減 (b-a)
ドル為替 (円/\$)	145	150	+5
ユーロ為替 (円/€)	157	160	+3
銅価格 (¢/lb)	379	400	+21
金価格 (\$/oz)	1,989	2,000	+11
パラジウム価格 (\$/oz)	1,191	1,100	△91

感応度*1		影響額 (億円)
ドル為替	営業利益±1円/\$	7.8
ユーロ為替	営業利益±1円/€	1.8
銅価格	(a)営業利益±10¢/lb	6.7
	(b)営業外損益±10¢/lb	18.9
	(a+b)経常利益±10¢/lb	25.5

*1:感応度に在庫評価影響は含んでおりません。

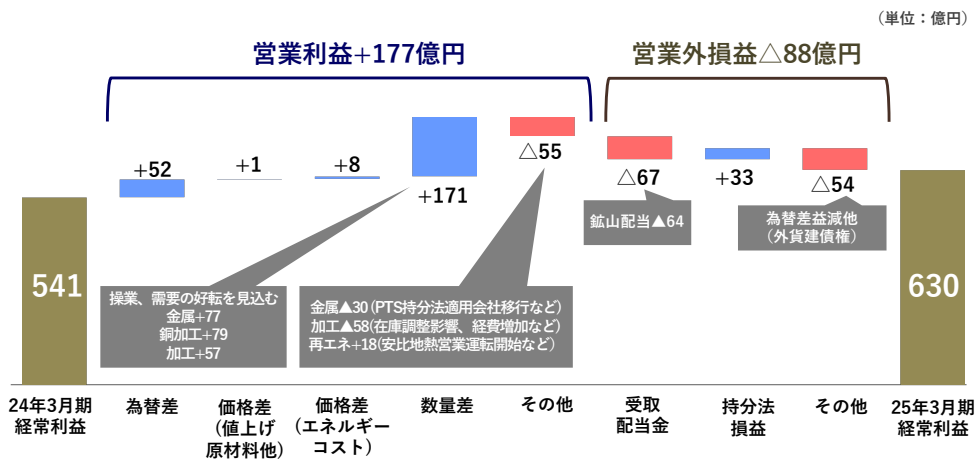
10

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

こちらは、2025年3月期の通期予想、諸元、感応度、経営指標を示しています。
詳細は滝グラフでご説明いたします。

25年3月期 通期業績予想（利益要因内訳）

- 営業利益は、足元の為替水準継続、自動車市場向け製品、半導体関連製品の販売増加などにより410億円（前年度実績+177億円の増益）を見込む。
- 経常利益は、ロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金の減少、為替差益の減少などにより630億円（前年度実績+89億円の増益）を見込む。



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

11

こちらは、2025年3月期通期の経常利益予想を2024年3月期実績と比較した増減分析となります。

営業利益は、足元の為替水準継続、自動車市場向け製品、半導体関連製品の販売増加などにより、対前年で177億円の増益を見込んでいます。

営業外損益は、ロスペランブレス銅鉱山で今期から借入金の返済が本格的に始まるため、前年並みの受取配当金は出ないと見込んでいることや、今期の為替レートの見通しを踏まえると外貨建債権の為替差益が前期ほど計上できないと見込んでいることから、対前年で88億円の減益を見込んでいます。

これらの結果、経常利益予想は対前年で89億円増益の630億円としています。

セグメント概況（金属事業）



- 24年3月期は、パラジウム価格の大幅な下落や硫酸手取りの悪化、原材料入荷減による金及びその他金属の販売減少があった一方、ロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金の増加などにより経常利益は310億円（前年度実績+11億円の増益）となった。
- 25年3月期は、ロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金の減少を見込む一方、製錬所の生産トラブル、原材料入荷減の解消、資源事業の持分法投資損益の改善などにより経常利益は370億円（前年度実績+60億円の増益）を見込む。
- ROICは、経常利益の増益に加え投下資本の減少により7.2%（前年度実績+2.2%）となる見込み。

項目	23年3月期 実績(a)	24年3月期 実績(b)	増減 (b-a)	24年3月期 実績(b)	25年3月期 予想(c)	増減 (c-b)
売上高 億円	10,893	10,380	△513	10,380	13,537	+3,157
営業利益 億円	282	98	△183	98	165	+66
経常利益 億円	299	310	+11	310	370	+60
ROIC %	7.0	5.0	△2.0	5.0	7.2	+2.2

23年3月期経常利益実績	299
為替差	+23
価格差	△93
数量差	△23
受取配当金	+159
持分法損益	△38
その他	△17
24年3月期経常利益実績	310

24年3月期経常利益実績	310
為替差	+27
価格差	△7
数量差	+77
受取配当金	△64
持分法損益	+77
その他	△50
25年3月期経常利益予想	370

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

12

こちらは、金属事業です。

2024年3月期は、パラジウム価格の大幅な下落や硫酸手取りの悪化、原材料入荷減による金及びその他金属の販売減少がありましたが、ロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金の増加などにより、経常利益は対前年で11億円増益の310億円となりました。

2025年3月期は、ロスペランブレス銅鉱山からの受取配当金の減少を見込んでいますが、製錬所の生産トラブルや原材料入荷減の解消、資源事業の持分法投資損益の改善などにより、経常利益は対前年で60億円増益の370億円を見込んでいます。ROICは、増益に加え投下資本の減少により7.2%に上昇する見込みです。

セグメント概況（銅加工事業）

- 24年3月期は、価格改定による効果があった一方、自動車向け製品を中心に販売が減少したことに加え、ヘッジコストの増加などにより経常利益は△5億円（前年度実績△5億円の減益）となった。
- 25年3月期は、自動車向けxEV等の需要増加、在庫調整解消による半導体向け需要回復に伴う販売の増加、銅合金等の差別化製品の拡販推進などにより経常利益は73億円（前年度実績+79億円の増益）を見込む。
- ROICは、経常利益の増加により3.2%（前年度実績+2.6%）となる見込み。

項目	23年3月期 実績(a)	24年3月期 実績(b)	増減 (b-a)	24年3月期 実績(b)	25年3月期 予想(c)	増減 (c-b)
売上高 億円	4,021	4,102	+80	4,102	5,149	+1,047
営業利益 億円	26	26	△0	26	107	+80
経常利益 億円	△0	△5	△5	△5	73	+79
ROIC %	0.6	0.6	－	0.6	3.2	+2.6

23年3月期経常利益実績	▲0
為替差	+3
価格差	+48
数量差	△29
その他	△27
24年3月期経常利益実績	▲5

24年3月期経常利益実績	▲5
為替差	+1
価格差	+7
数量差	+79
その他	△9
25年3月期経常利益予想	73

こちらは、銅加工事業です。

2024年3月期は、価格改定効果がありましたが、自動車向け製品を中心に販売が減少したことに加え、ヘッジコストの増加などにより、経常利益は対前年5億円減益のマイナス5億円となりました。需要環境が厳しく業績は低迷しましたが、コスト競争力の強化を進め損益分岐点を下げる取り組みを進めました。その結果、収益構造はより筋肉質になっており、今期の業績に寄与してくると思っています。

2025年3月期は、自動車向けxEV等の需要増加、在庫調整解消による半導体向け需要回復に伴う販売の増加、銅合金等の差別化製品の拡販推進などにより、経常利益は対前年79億円増益の73億円を見込んでいます。
ROICは、増益により3.2%に改善する見込みです。

セグメント概況（電子材料事業）

- 24年3月期は、半導体市況の悪化により半導体関連製品の販売が減少したことなどにより経常利益は28億円（前年度実績△48億円の減益）となった。
- 25年3月期は、半導体市況は依然低調であり、本格的な回復は後半からを見込む、製品群毎の顧客在庫状況、市況変化を的確にとらえた販売の増加などにより経常利益は38億円（前年度実績+10億円の増益）を見込む。
- ROICは、経常利益の増加により3.8%（前年度実績+0.5%）となる見込み。

項目	23年3月期 実績(a)	24年3月期 実績(b)	増減 (b-a)	24年3月期 実績(b)	25年3月期 予想(c)	増減 (c-b)
売上高 億円	1,246	799	△446	799	840	+40
営業利益 億円	59	17	△42	17	29	+12
経常利益 億円	77	28	△48	28	38	+10
ROIC %	8.7	3.3	△5.4	3.3	3.8	+0.5

23年3月期経常利益実績	77
為替差	+4
価格差	+4
数量差	△50
受取配当金	△4
持分法損益	+1
その他	△3
24年3月期経常利益実績	28

24年3月期経常利益実績	28
為替差	+2
価格差	△1
数量差	+16
受取配当金	△0
持分法損益	△3
その他	△4
25年3月期経常利益予想	38

こちらは、電子材料事業です。

2024年3月期は、半導体市況の悪化により半導体関連製品の販売が減少したため、経常利益は対前年48億円減益の28億円となりました。

2025年3月期は、足元の半導体市況は依然低調ですが、後半から本格的な回復を見込み、経常利益は対前年10億円増益の38億円を見込んでいます。

ROICは、増益により3.8%に上昇する見込みです。

セグメント概況（加工事業）



- 24年3月期は、為替が円安基調で推移したものの、日本及びアジア地域において販売が減少したことなどにより経常利益は122億円（前年度実績△22億円の減益）となった。
- 25年3月期は、足元の為替水準の継続に加え価格改定効果、販売の増加などにより経常利益は140億円（前年度実績+17億円の増益）を見込む。
- ROICは、経常利益が増加するものの、投下資本の増加により5.3%（前年度実績+0.1%）となる見込み。

項目	23年3月期 実績(a)	24年3月期 実績(b)	増減 (b-a)	24年3月期 実績(b)	25年3月期 予想(c)	増減 (c-b)
売上高 億円	1,416	1,400	△15	1,400	1,944	+544
営業利益 億円	141	108	△32	108	143	+35
経常利益 億円	145	122	△22	122	140	+17
ROIC %	6.9	5.2	△1.7	5.2	5.3	+0.1

23年3月期経常利益実績	145	24年3月期経常利益実績	122
為替差	+36	為替差	+22
価格差	+18	価格差	+14
数量差	△73	数量差	+57
受取配当金	△0	受取配当金	+0
その他	△3	その他	△76
24年3月期経常利益実績	122	25年3月期経常利益予想	140

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

15

こちらは、加工事業です。

2024年3月期は、為替が円安基調で推移したものの、日本及びアジア地域において販売が減少したことなどにより、経常利益は対前年22億円減益の122億円となりました。

2025年3月期は、足元の為替水準の継続に加え、価格改定効果（特に海外だが）や販売の増加などにより、経常利益は対前年17億円増益の140億円を見込んでいます。ROICは、増益となるものの投下資本が増加することにより、今年度とほぼ同水準の5.3%にとどまる見込みです。

UBE三菱セメント社概況

■UBE三菱セメント社連結損益計算書

(単位：億円)

項目	23年3月期 実績	24年3月期 実績	25年3月期 通期予想
売上高	5,763	5,852	6,050
うち海外事業	1,401	1,781	1,950
営業利益	△283	456	430
うち海外事業	79	306	280
経常利益	△257	476	420
親会社株主に帰属する 当期純利益	△473	245	210

■当社持分法投資損益

持分法投資損益	△249	138	96
---------	------	-----	----

■UBE三菱セメント社諸元

項目	23年3月期 実績	24年3月期 実績	25年3月期 通期予想
セメント (国内総需要) 万 t	3,724	3,458	3,500
セメント (国内)販売数量 万 t	909	820	850
セメント (米国)販売数量 万 st	163	173	179
生コン (米国)販売数量 万 cy	674	674	704
一般炭価格 (参考指標) \$/ t	356	142	180
ドル為替 円/\$	135	144	145

※上記一般炭価格は参考指標であり、実際の調達価格とは異なる。

(参考) 24年3月末 連結貸借対照表

(単位：億円)

総資産	8,129	有利子負債	1,807	自己資本	3,649
自己資本比率	44.9%	ネットD/Eレシオ	0.29倍		

- 国内事業：2023年度は、セメント事業で5,000円/t値上げの完遂や安価熱エネルギーの使用拡大等の改善効果があり、黒字を達成した。2024年度は、セメント事業で物流費や資材価格の上昇、環境エネルギー事業で電力販売減少等の減益要因はあるが、セメント値上効果の年間を通じた寄与と安価熱エネルギーの更なる使用拡大により、国内事業全体では2023年度並みの営業利益を見込む。
- 海外事業：2023年度は、主に米国生コン事業での値上げの早期の浸透等の効果により、対前年で大幅な増益となった。2024年度は、米国セメント・生コン事業では、資材価格や人件費等が上昇しコストアップとなるが、南カリフォルニア地区の需要回復による販売数量増や更なる値上げにより前年度並みの営業利益を見込む。一方で、豪州石炭事業では減益を見込んでおり、海外事業全体の営業利益は2023年度と比較して減益を見込む。

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

16

こちらは、UBE三菱セメント社です。

2024年3月期の経常利益は476億円となり、対前年で733億円の損益改善となりました。国内事業は、セメント事業での5,000円値上げの完遂や安価熱エネルギーの使用拡大等の改善効果により黒字を達成し、また、海外事業は、主に米国生コン事業での値上げの早期の浸透等の影響により対前年で大幅な増益となりました。

2025年3月期の経常利益は420億円としており、対前年で56億円の減益を見込んでいます。国内・海外のセメント事業については、増益要因・減益要因それぞれありますが、概ね前年並みの利益を確保できる見通しです。しかしながら豪州の石炭事業で販売価格影響等による減益を見込んでおり、トータルでは対前年で減益となる見込みです。

コスト競争力強化

- 2023年度は、原材料価格上昇などの事業環境悪化を踏まえ、金属事業及び加工事業では追加削減策を進め、高機能製品カンパニーはほぼ計画通り。
- 2024年度も各セグメントでコストダウンを推進する。

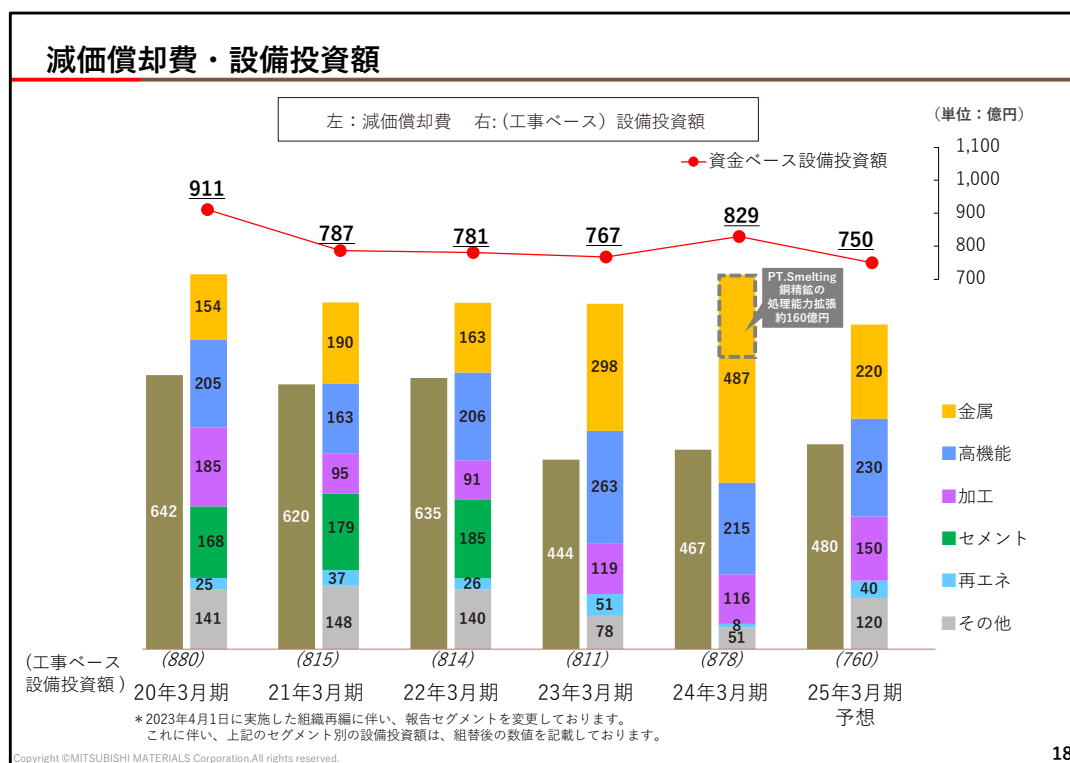
(単位：億円)

コストダウン計画		2023年度		2024年度		2025年度
		中経計画	実績	中経計画	見込み	中経計画
金属	・ヘッジコスト、スラグコスト、エネルギーコスト削減	0	47	0.1	111	26
高機能製品	銅加工 ・歩留改善、固定費削減（労務費・外部委託費等） 電子材料 ・固定費削減（労務費等）、生産性の向上	17	16	24	31	32
加工	・製造原価低減 ・子会社でのコストダウン	9	21	19	36	30
再エネ	・発電所運転経費削減 ・発電所の自動運転による運営効率化等	0	0	0.2	0.3	0.2
事業合計		26	84	44	178	88

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

17

こちらは、コスト競争力の強化をお示ししています。
2023年度は、原材料価格上昇などの事業環境悪化を踏まえ、金属事業及び加工事業では追加削減策を進め計画以上のコストダウンを、また、高機能製品もほぼ計画通りのコストダウンを実現しました。2024年度も各セグメントでコストダウンを推進いたします。

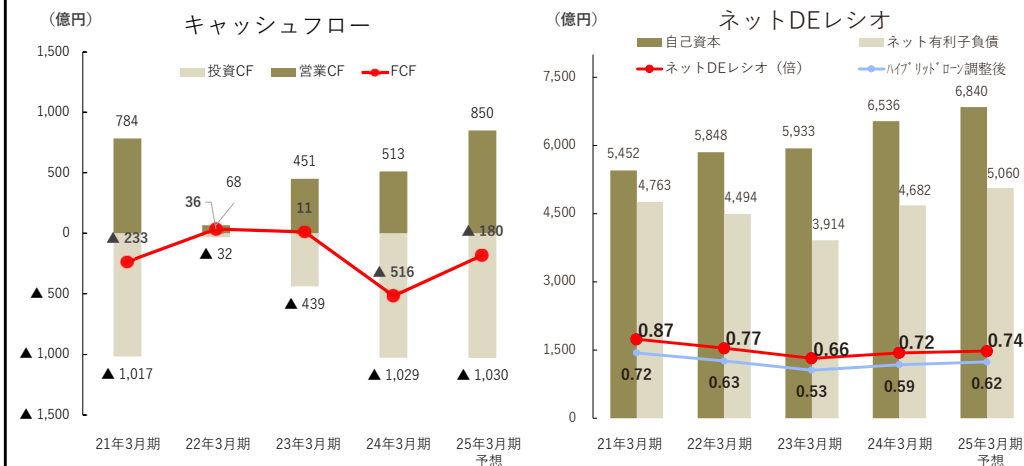


こちらは、減価償却費及び設備投資額の推移をお示ししています。
 設備投資は、2024年3月期実績は829億円となり、このうち160億円については、PTS社において実施した銅精鉱の処理能力の拡張投資が占めており、投資に必要となる資金はPTFI社からの借り入れで賄っています。本年6月におこなうデット・エクイティ・スワップにより、PTFI社からの借り入れが資本に振り替わり、PTS社は当社の連結子会社から持分法適用会社になる予定です。

2025年3月期も設備投資額が減価償却費を上回る見込みですが、中経2030で定めたキャピタルアロケーションの投資計画に沿ったものとなっており、成長投資を適切に進めていきます。

キャッシュフロー・ネットDEレシオ

- 24年3月期のFCFは、販売の減少などによりキャッシュインは減少となったものの、キャッシュフロー改善プロジェクトによる棚卸資産の圧縮や売掛債権の早期回収などの各施策の実行、計画していた投資案件の一部見直しなどにより、期初予想（△500億円）並みの△516億円となった。
- 25年3月期のFCFは、販売増加による営業利益の増加などにより△180億円を見込む。
- 25年3月期のネットDEレシオは、中期経営戦略に基づく成長投資を推し進め、前年度と同水準を維持する見込み。



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation. All rights reserved.

19

こちらは、キャッシュフローとネットDEレシオの推移を示しています。

2024年3月期のフリーキャッシュフローは、販売の減少などによりキャッシュインは減少となったものの、キャッシュフロー改善プロジェクトによる棚卸資産の圧縮や売掛債権の早期回収などの各施策の実行、計画していた投資案件を事業環境の変化等を踏まえ一部見直したことなどにより、期初予想（△500億円）並みのマイナス516億円となりました。

2025年3月期のフリーキャッシュフローは、販売増加による営業利益の増加などによりマイナス180億円を見込んでいます。

2025年3月期のネットDEレシオは、中期経営戦略に基づく成長投資を推し進め、前年と同水準を維持する見込みです。

私からの説明は以上でございます。

参考情報

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

セグメント別内訳

(単位：億円)

項目	23年3月期 実績(a)*1			24年3月期 実績(b)			25年3月期 予想(c)			増減 (b-a)			増減 (c-b)		
	売上高	営業 利益	経常 利益	売上高	営業 利益	経常 利益	売上高	営業 利益	経常 利益	売上高	営業 利益	経常 利益	売上高	営業 利益	経常 利益
金属	10,893	282	299	10,380	98	310	13,537	165	370	△513	△183	+11	+3,157	+66	+60
高機能製品 *2	5,263	81	71	4,887	40	18	5,975	130	104	△376	△40	△53	+1,088	+89	+86
銅加工	4,021	26	△0	4,102	26	△5	5,149	107	73	+80	△0	△5	+1,047	+80	+79
電子材料	1,246	59	77	799	17	28	840	29	38	△446	△42	△48	+40	+12	+10
加工	1,416	141	145	1,400	108	122	1,944	143	140	△15	△32	△22	+544	+35	+17
再生可能 エネルギー	34	2	9	46	8	8	89	23	24	+11	+6	△1	+43	+14	+15
その他	1,706	90	△159	1,606	78	221	1,523	29	113	△100	△11	+380	△82	△49	△107
調整額	△3,054	△96	△113	△2,913	△101	△140	△3,570	△81	△123	+141	△4	△26	△657	+20	+17
合計	16,259	500	253	15,406	232	541	19,500	410	630	▲852	▲267	+287	+4,094	+177	+89

*1:2023年4月1日に実施した組織再編に伴い、報告セグメントを変更しております。これに伴い、23年3月期実績は、変更後の区分にあわせて組み替えております。

*2:高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを含めて記載しております。

前年実績対比（セグメント別要因内訳）

（単位：億円）

項目	23年3月期 実績 (a) *1	24年3月期 実績 (b)	増減 (b - a)	為替差	価格差	数量差	受取 配当金	持分法 損益	その他
金属	売上高	10,893	10,380	△513	+729	△200	△1,042	-	-
	営業利益	282	98	△183	+23	△93	△23	-	△90
	経常利益	299	310	+11	+23	△93	△23	+159	△38
高機能製品 *2	売上高	5,263	4,887	△376	+231	+8	△238	-	-
	営業利益	81	40	△40	+7	+53	△80	-	-
	経常利益	71	18	△53	+7	+53	△80	△4	△3
銅加工	売上高	4,021	4,102	+80	+222	+7	△149	-	-
	営業利益	26	26	△0	+3	+48	△29	-	-
	経常利益	△0	△5	△5	+3	+48	△29	△0	△4
電子材料	売上高	1,246	799	△446	+9	+1	△78	-	-
	営業利益	59	17	△42	+4	+4	△50	-	-
	経常利益	77	28	△48	+4	+4	△50	△4	+1
加工	売上高	1,416	1,400	△15	+85	+35	△135	-	-
	営業利益	141	108	△32	+36	+18	△73	-	-
	経常利益	145	122	△22	+36	+18	△73	△0	-
再生可能 エネルギー	売上高	34	46	+11	-	+6	+5	-	-
	営業利益	2	8	+6	-	+6	+4	-	-
	経常利益	9	8	△1	-	+6	+4	-	△4
その他	売上高	1,706	1,606	△100	+7	-	△16	-	-
	営業利益	90	78	△11	+0	-	+5	-	-
	経常利益	△159	221	+380	+0	-	+5	△5	+380
調整額	売上高	△3,054	△2,913	+141	△137	+50	+228	-	-
	営業利益	△96	△101	△4	-	-	△2	-	-
	経常利益	△113	△140	△26	-	-	△2	△0	△22
合計	売上高	16,259	15,406	▲852	+917	▲100	▲1,200	-	-
	営業利益	500	232	▲267	+66	▲16	▲169	-	-
	経常利益	253	541	+287	+66	▲16	▲169	+147	+334

*1:2023年4月1日に実施した組織再編に伴い、報告セグメントを変更しております。これに伴い、23年3月期実績は、変更後の区分にあわせて組み替えております。
*2:高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを含めて記載しております。

Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

四半期業績の推移 セグメント別

(単位：億円)

項目		23年3月期 *1								24年3月期							
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	
金属	売上高	2,897	2,775	5,673	2,718	2,501	5,220	10,893		2,409	2,358	4,768	2,395	3,216	5,611	10,380	
	営業利益	61	102	164	26	92	118	282		16	54	71	△3	30	27	98	
	経常利益	120	91	212	3	82	86	299		26	58	84	198	27	225	310	
高機能製品 *2	売上高	1,332	1,270	2,603	1,368	1,292	2,660	5,263		1,205	1,224	2,429	1,253	1,204	2,457	4,887	
	営業利益	37	24	61	13	6	20	81		4	3	8	16	16	32	40	
	経常利益	38	23	61	13	△2	10	71		2	△0	1	8	8	16	18	
銅加工	売上高	1,037	963	2,001	1,040	980	2,020	4,021		1,016	1,027	2,043	1,059	999	2,058	4,102	
	営業利益	10	14	24	△0	2	2	26		5	5	10	8	7	15	26	
	経常利益	7	5	12	△3	△9	△13	△0		△0	△1	△2	△2	△1	△3	△5	
電子材料	売上高	299	304	604	329	312	642	1,246		189	199	388	201	208	410	799	
	営業利益	25	12	38	16	4	21	59		1	△1	0	7	9	17	17	
	経常利益	30	20	50	18	7	26	77		4	2	6	9	11	21	28	
加工	売上高	362	355	718	353	343	697	1,416		350	347	698	349	352	702	1,400	
	営業利益	43	35	78	34	27	62	141		32	19	52	29	25	55	108	
	経常利益	50	37	88	29	27	57	145		41	22	63	27	31	59	122	
再生可能 エネルギー	売上高	9	8	17	7	9	17	34		12	10	22	12	11	23	46	
	営業利益	1	△1	0	△0	2	1	2		3	△0	2	3	2	5	8	
	経常利益	2	0	3	2	4	6	9		3	△0	3	2	3	5	8	
その他	売上高	371	398	770	437	498	935	1,706		334	390	725	417	463	880	1,606	
	営業利益	12	23	35	19	34	54	90		△1	16	15	16	45	62	78	
	経常利益	△33	△63	△97	△13	△49	△62	△159		20	62	82	51	87	138	221	
調整額	売上高	△748	△714	△1,463	△769	△821	△1,591	△3,054		△686	△795	△1,482	△774	△657	△1,431	△2,913	
	営業利益	△16	△27	△44	△9	△42	△51	△96		△18	△12	△31	△27	△42	△70	△101	
	経常利益	△7	△29	△37	△15	△60	△75	△113		△24	△27	△51	△35	△53	△88	△140	
合計	売上高	4,226	4,093	8,319	4,115	3,823	7,939	16,259		3,626	3,535	7,161	3,653	4,590	8,244	15,406	
	営業利益	139	156	295	84	121	205	500		37	81	119	34	78	113	232	
	経常利益	170	59	230	19	3	22	253		69	114	184	252	104	356	541	

*1:2023年4月1日に実施した組織再編に伴い、報告セグメントを変更しております。これに伴い、変更後の区分にあわせて組み替えております。
*2:高機能製品合計額には、高機能製品共通として銅加工事業、電子材料事業間取引などを含めて記載しております。

諸元

主要製品の生産・販売動向

項目			23年3月期							24年3月期							25年3月期
			1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期
電気銅	生産量	千 t	92	90	182	90	71	162	344	96	109	204	95	113	208	413	419
	販売量	千 t	79	83	162	83	73	156	318	86	99	186	92	111	203	388	391
金	生産量	t	9	10	20	10	9	19	38	9	6	14	4	8	12	26	42
	販売量	t	9	10	20	10	9	19	38	8	6	14	4	8	12	26	42
銀	生産量	t	84	71	155	66	65	131	286	66	61	126	44	65	109	235	307
	販売量	t	83	73	156	60	70	130	286	65	61	126	39	71	110	236	307
伸銅品	販売量	千 t	34	33	66	35	33	68	134	29	31	61	32	31	63	124	147

鉱山配当額の推移

項目			23年3月期							24年3月期							25年3月期
			1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期
Los Pelambres	配当額	億円	38	1	40	0	△0	0	40	－	－	－	208	1	210	210	131
Escondida	配当額	億円	12	4	16	12	2	14	31	6	3	9	9	2	12	21	36
鉱山配当額計	配当額	億円	51	5	57	13	1	14	72	6	3	9	217	4	222	231	167

金属価格・為替の推移

項目			23年3月期							24年3月期							25年3月期
			1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期
ドル為替レート	円/\$		130	138	134	142	132	137	135	137	145	141	148	149	148	145	150
ユーロ為替レート	円/€		138	139	139	144	142	143	141	149	157	153	159	161	160	157	160
銅価格(LME)	¢/lb		432	351	392	363	405	384	388	385	379	382	371	383	377	379	400
金価格	\$/oz		1,873	1,729	1,801	1,729	1,888	1,809	1,805	1,978	1,929	1,954	1,976	2,072	2,024	1,989	2,000
パラジウム価格	\$/oz		2,092	2,074	2,083	1,940	1,567	1,754	1,918	1,449	1,251	1,350	1,085	978	1,031	1,191	1,100

持分法投資損益内訳

(単位：億円)

会社名	当社 持分	23年3月期							24年3月期							25年3月期
		1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	1Q	2Q	上期	3Q	4Q	下期	通期	通期
Copper Mountain Mine(BC)Ltd.	25%	13	△0	12	△6	△1	△7	5	△4	△17	△22	5	△5	0	△22	12
Mantoverde S.A.	30%	1	△4	△3	△6	△6	△12	△16	△12	2	△10	△2	△10	△13	△23	2
PT.Smelting	35% ※1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	11
関西リサイクルシステムズ	41.4%	1	1	3	1	1	2	5	1	1	2	1	1	2	5	5
フジクラダイヤケーブル	22.5%	0	0	1	1	1	2	4	2	1	4	2	2	5	9	6
湯沢地熱	30%	1	1	2	3	2	6	9	0	0	0	2	1	4	4	6
UBE三菱セメント	50%	△50	△83	△134	△35	△79	△114	△249	20	47	67	29	41	70	138	96
その他		16	3	19	1	△0	1	21	1	1	2	1	△2	△0	2	5
合計		▲16	▲81	▲97	▲39	▲81	▲121	▲219	7	37	45	41	28	70	115	148

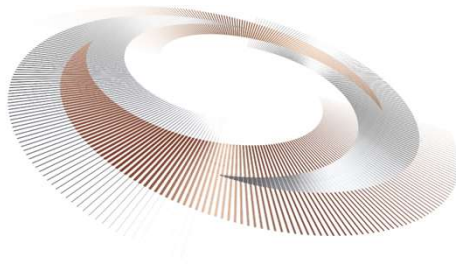
* 1:PT.Smeltingの当社持分は予定値となります。

電源の保有状況

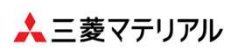
電源	事業所名称	所在地	出力 (kW)	出資比率	運転開始年
地熱 発電	大沼地熱発電所	秋田県	9,500	100%	1974年
	澄川地熱発電所*	秋田県	50,000	77%	1995年
	山葵沢地熱発電所	秋田県	46,199	30%	2019年
	安比地熱発電所	岩手県	14,900	51%	2024年
水力 発電	永田発電所	秋田県	721	100%	1898年
	碓発電所	秋田県	1,873	100%	1907年
	大湯発電所	秋田県	956	100%	1920年
	小又川第四発電所	秋田県	6,808	100%	1953年
	小又川新発電所	秋田県	10,326	100%	2022年
太陽光 発電	入釜太陽光発電所	宮城県	6,930	50%	2015年
	矢吹太陽光発電所	福島県	6,544	50%	2016年
	真壁太陽光発電所	茨城県	1,990	50%	2013年
	福井太陽光発電所	福井県	1,990	50%	2013年
	鳥越太陽光発電所	福岡県	1,990	50%	2014年

* 澄川地熱発電所は蒸気供給事業を行っています。





人と社会と地球のために、循環をデザインし、持続可能な社会を実現する



Copyright ©MITSUBISHI MATERIALS Corporation.All rights reserved.

注 意 事 項

本資料は、金融商品取引法上のディスクロージャー資料ではなく、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また、将来の計画等は、本資料発表日時点で入手可能な情報により当社が判断したものであり、実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、本資料の計画等と大きく異なる可能性があります。

したがって、本資料のみに依拠して投資判断されますことはお控えくださいますようお願いいたします。本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

本資料に関する著作権、商標権その他すべての知的財産権は、当社に帰属します。

お問合せ先

**三菱マテリアル株式会社
コーポレートコミュニケーション室 I Rグループ**

〒100-8117 東京都千代田区丸の内3-2-3 丸の内二重橋ビル

ml-mmcir@mmc.co.jp

<https://www.mmc.co.jp/corporate/ja/index.html>

< 免責事項 >

本資料における見通しは、本資料発表日時点で入手可能な情報により当社が判断したものです。
実際の業績は様々なリスク要因や不確実な要素により、本資料業績予想と大きく異なる可能性があります。
本資料に掲載されている内容・写真・図表などの無断転載を禁止します。